

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 25 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21530806

研究課題名(和文) FD活動の一環としてのライティングセンターの機能開発に関する研究

研究課題名(英文) The study of writing development and faculty development in higher education focused on writing center as learning support for students

研究代表者 井下 千以子 (INOSHITA CHIIKO)

桜美林大学・心理・教育学系・教授

研究者番号：60407757

研究成果の概要(和文)：

本研究では、ライティングセンターの機能に着目し、学士課程教育の質保証に向けた学習支援の在り方を検討した。国内外の先進的な取組を行っている大学を訪問調査したところ、大学図書館にライティングセンターの機能を設けることや、授業でポートフォリオやルーブリックを用いて学習成果を評価するなど、ライティング教育を学士課程カリキュラムに位置づけていく組織的取組み(Writing across the curriculum)として、FD・SDを推進することが現実的、効果的、効率的であることがわかった。

研究成果の概要(英文)：

The purpose of this study is to investigate how writing center as learning environment support writing development in higher education. In many cases, WAC(Writing across the curriculum) can be managed with collaboration of faculty and staff(librarian) development. Promoting the WAC program is a key for enhancing students' writing development.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：ライティング教育、学習支援、学士課程教育の質保証、FD・SD活動、ライティングセンター、大学図書館、ルーブリック、ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

近年、大学のユニバーサル化の進行に伴い、初年次教育は急速に普及した。山田らが2007年に実施した調査によれば、レポート・論文の書き方などの文書作法が、初年次教育の内容として最も重視されていることがわかった。

しかし、初年次でのスキル学習がその後の学士課程教育にどのようにつながっていくかは明確に示されていない。初年次に基本的な書き方の訓練や、汎用性の高いレポートの書き方を短期間で効率的に教えることも必要である。一方で、大学におけるライティング教育では、ライティングに関する知識やスキルの習得を基盤として、ディシプリンでの学習や、教養形成の機能を加味していくことも重要であろう。学士課程教育の4年間に渡り、学習者の経験を通して知識が生成されるプロセスを、ライティングの指導を通して支援することも必要ではないか。

したがって、初年次における文章表現科目だけでなく、学士課程教育に関わるすべての教員が「書く課題」にどう取り組んでいるか、相互に学びあう、FD活動がひとつの鍵となると考えられる。

本研究の背景には、こうした普及期を過ぎた初年次教育におけるライティング教育の問題点を指摘した上で、学士課程教育4年間に渡るライティング教育(Writing across the curriculum)として、ディシプリンに埋め込まれた思考方法や幅広い知識を示しつつ、学生の思考の発展やアイデンティティの発達にもつながるよう、学生が主体的に考えて書くプロセスを支援する教育を提案していこうとしたことにある。

2. 研究の目的

本研究では、ライティング教育を、学士課

程カリキュラムに位置づけていくための組織的取組み(Writing across the curriculum)として、ライティングセンターの機能開発に着目し、FD・SD活動と関連づけ、学士課程教育の質保証に向けた学習支援の在り方について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)国内外のライティングセンター、学習支援センター、FDセンター、大学図書館など、ライティング教育を支援する担当部署を訪問調査し、指導教員の構成、人材の育成など、大学の実状に適合した機能と運営体制について精査した。

(2)ライティング指導の方策として、FD活動と関連づけた授業改善のための「ティーチング・ポートフォリオ」、学生の学びと書く力を支援する「ラーニング・ポートフォリオ」、考えるプロセスを支援する「レポート・論文作成教材」、ライティング指導のための評価基準「ルーブリック」を開発した。

(3)調査研究活動から明らかになった成果を学会発表や、FD研修会での講演やワークショップなどを通して公表することによって、今後のライティング教育を通じたFD活動のあり方について検討した。

4. 研究成果

(1)平成21年度の成果は次のとおりである。

①平成21年6月の大学教育学会のラウンドテーブルでは、「ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動の展開」と題し、先進的取組みとして、論文コンテスト、大学図書館、ラーニング・ポートフォリオを取り上げ、ライティング教育としての各取組みの機能と分担、さらに学士課程カリキュラム・マップを用いて、その位置づけと意義を確認

した。②国内外で先進的な取組みを行っているライティングセンター、学習支援センターを訪問調査した。訪問した大学は、国内では龍谷大学、津田塾大学、国外はカナダのマギル大学、アルバータ大学、ブリティッシュコロンビア大学、米国のワシントン大学、シアトル大学、カリフォルニア大学である。これらの訪問調査では、特に、ライティングセンターや FD センターの機能に着目し、ライティング教育を学士課程カリキュラムに位置づけていくための組織的取組のあり方について検討を行った。③これらの研究活動から明らかになった成果を FD 研修会での招待講演やワークショップなどの活動を通して公表した。

(2)平成 22 年度の成果は次のとおりである。

①大学教育学会のラウンドテーブルでは、ライティングセンターの組織的位置づけ、剽窃の問題、アルバータ大学の先進的な事例 (Writing Across the Curriculum) を紹介した。②教育心理学会では、学びの根拠を説得に示す論証表現に着目し、知識変換型ライティング指導のための評価基準 (ルーブリック) について検討を行った。③Educational Development をテーマとする国際学会で日本の初年次教育におけるライティング指導例を発表した。④国内外の先進的なライティングセンター、学習支援センター、大学図書館を訪問調査した。訪問した大学は、国内では金沢工業大学、国外はカナダのマギル大学、ダルハウジー大学、米国の南カリフォルニア大学、ブリガムヤング大学、ウェストミンスター大学、ユタバレー大学、韓国のスンシル大学である。⑤これらの研究活動から明らかになった成果を FD 研修会での招待講演やワークショップなどの活動を通して公表した。

(3)平成 23 年度の成果は次のとおりである。

①大学教育学会のラウンドテーブルでは、学

士課程教育における「書く力」の共通基盤とは何かをテーマとし、ライティング教育の基盤とする指標としての評価 (ルーブリック) のあり方、学習基盤を構築するための図書館の機能、ラーニング・コモンズなどの学習環境の整備による支援体制、さらには一生涯通じてのキャリア発達を見据え、大学で習得した書く力をいかに発展させていくことができるかといった観点から、これまでの実践の成果を発表し、議論を行った。その結果、大学図書館の中にライティングセンターの機能を設けること (図書館員による支援体制の充実)、ポートフォリオやルーブリックを用いて授業での成果物であるレポートを明確に評価すること、授業での書くことの訓練がキャリア発達を支援する基盤となることなど、ライティング教育を支援する体制として、より現実的・効率的・効果的な機能が明らかとなった。②これまでの研究成果を、私学事業財団における私学の理事長・学長を対象としたリーダーズセミナーでの招待講演や、各地の FD・SD 研修会において公表し、社会に還元することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 井下千以子・井下理、小笠原正明・米澤誠「ライティング教育を基点とした学習支援と FD・SD 活動の展開 (3) - 学士課程教育における「書く力」の共通基盤とは何か -」、大学教育学会誌、査読無、第 33 巻 2 号、70-71、2011.
- ② 柴原宜幸、「大学 1 年生におけるライティングの変化 (1) 前期集中授業での課題の分析から」、日本橋学館大学紀要、査読有、10 号、36-38、2011.
- ③ 井下理、「体験型学習の意義と課題」、IDE 高等教育、査読有、530 巻、33-46、2011.
- ④ 井下千以子、田部井潤、井下理、土持法二、「ライティング教育を基点とした学習支援と FD・SD 活動の展開 (2)」、大学教育学会誌、査読無、第 32 巻 2 号、36-38、2010.

- ⑤ 井下理、「教授法改善と学習支援型図書館ーラーニング・コモنزの国際的普及」、教育学術新聞、査読無、2頁、2010.
- ⑥ 井下千以子、土持法一、長澤多代、近田政博「ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動の展開」、大学教育学会誌、査読無、第31巻2号、100-103、2009.

[学会発表] (計 25 件)

- ① 井下千以子、「学力不足の学生に対する教育についてー「学習観の転換」と「発達観の転換」」、戸板女子短期大学FD研修会、2012年3月8日、東京.
- ② 井下千以子、「「大学での学び」と「キャリア教育」をつなぐー「学習観の転換」と「発達観の転換」」、旭川大学第2回FD研修会・経済学部就職委員会共催、2012年2月28日、旭川.
- ③ 井下千以子、「「大学での学び」と「キャリア教育」をつなぐー「考え抜く力」と「コミュニケーション力」の重要性ー」、第2回私学リーダーズセミナー、2011年12月21日、東京ガーデンパレス.
- ④ 井下千以子、「「大学での学び」と「キャリア教育」をつなぐー「考え抜く力」と「コミュニケーション力」の重要性ー」、第2回私学リーダーズセミナー、2011年1月29日、福岡ガーデンパレス.
- ⑤ 井下千以子、井下理、田部井潤、柴原宜幸、土持法一、小笠原正明、米澤誠、「ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動の展開(3)ー学士課程教育における「書く力」の共通基盤とは何かー」大学教育学会第33回大会、2011年6月5日、桜美林大学、東京.
- ⑥ 井下千以子、「知的自律と自己の発達を支援するアカデミック・キャリアガイダンスー初年次教育と入学前教育のプログラム開発を踏まえてー」、大学教育学会第33回大会、2011年6月5日、桜美林大学、東京.
- ⑦ 井下理、「大学図書館の構想策定へ向けた教職協働の試みーグループインタビュー調査技法の活用を軸にー」、大学教育学会第33回大会、2011年6月5日、桜美林大学、東京.
- ⑧ 井下千以子、「書くことと思考の関係ー思考を育てる看護記録教育に向けて」、金沢医科大学看護学部FD研修会、2011年2月5日、金沢.
- ⑨ 井下千以子、「大学における書く力考える力を育むー豊かで深い学びを目指してー」、札幌医科大学FD講演、2010年12月14日、札幌.
- ⑩ 井下千以子、「豊かで深い学びを目指して

ー大学での書く力考える力を育むー」、鶴見大学歯学部FD講演会・鶴見歯学会協賛、2010年11月6日、神奈川.

- ⑪ 井下千以子、「高度専門職教育における書く力考える力を育むー豊かで深く意味のある大学での学びとはー」金沢医科大学教員懇談会、2010年10月19日、金沢.
- ⑫ Inoshita, C. The impact of a program for the first year students experience: On the basis of cognitive psychology, International Colloquium on Assessing the Impact of Educational Development Practice, 2010年9月22日, Dalhousie University, Canada.
- ⑬ Inoshita, O. Small Group Communication Practices: Instructional development and environmental educational development such as 'learning commons' are needed for teaching and learning development., International Colloquium on Assessing the Impact of Educational Development Practice, 2010年9月21日, Dalhousie University, Canada
- ⑭ 井下千以子、「授業改善講座4 図書館の教育支援を活用する」、第59回 長崎大学FD・SDサマーワークショップ、2010年9月6日、長崎.
- ⑮ 井下千以子、「授業改善講座3 ライティング指導をカリキュラムから考える」、第59回 長崎大学FD・SD サマーワークショップ、2010年9月6日、長崎.
- ⑯ 井下千以子、柴原宜幸、「知識変換型ライティングの指導に関する研究ーラーニング・ポートフォリオの「学びの根拠」の分析ー」、日本教育心理学会第52回総会、2010年8月23日、早稲田大学.
- ⑰ 井下千以子、「専門職教育における書く力考える力とはー豊かで深く意味のある学びとはー」神戸常盤大学教員研修会、2010年7月30日、神戸.
- ⑱ 井下千以子、「専門職教育における豊かな学びとはー発達論・学習論・カリキュラム論の視点からー」2010年7月23日、昭和薬科大学FD研修会、東京.
- ⑲ 井下千以子、田部井潤、井下理、柴原宜幸、土持法一「ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動の展開(2)」、大学教育学会、2010年6月6日、愛媛大学.
- ⑳ 井下理、「学習させる大学の構築ー大学執行部と教員の役割ー」、IDE高等教育フォーラム、2010年3月9日、一橋記念講堂.
- ㉑ 井下千以子、「ライティング教育とFDー書く力考える力を育む学士課程カリキュラムを目指してー」東京国際大学FD研修会、2010年2月8日、埼玉.

- ⑳ 井下千以子、「大学における学びの礎を築くーライティング教育と Curriculum Development の視点から」東京医科歯科大学教養部教員研修会、2010年2月5日、千葉.
- ㉑ 井下千以子、「ライティング教育 と Curriculum Developmentー学びの先を見通す力」ー、関西FD連絡協議会主催ワークショップ「思考し表現する学生を育てるー書くことをどう指導し、評価するか」、2009年12月12日、関西大学.
- ㉒ Inoshita, C. & Matsukubo, A. Establishing an Academic Cornerstone through Self Exploration: An Attempt at Academic and Career Advising, 22nd International Conference on First Year Experience, 2009年7月22日、Canada.
- ㉓ 井下千以子、田部井潤、井下理、土持法一、長澤多代、近田政博「ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動の展開」、大学教育学会、2009年6月6日、首都大学東京.

〔図書〕(計6件)

- ① 井下千以子『レポート・論文の書き方』慶應義塾大学出版会、2012、印刷中.
- ② 井下千以子、「入学前教育の動向と課題ーギャップタムをどう活かすか」、『初年次教育の現状と未来』、世界思想社、査読有、印刷中、2012.
- ③ 小田隆治編『学生主体型授業の冒険 2』ナカニシヤ出版、2012、分担：井下千以子「生涯発達心理学の視座からキャリアを考えるー考え抜く授業のデザイン」印刷中.
- ④ 土持法一『ポートフォリオが日本の大学を変えるーティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』東信堂、2011、256頁.
- ⑤ 東北大学高等教育開発センター編『大学における「学びの転換」と学士課程教育の将来』東北大学出版会、2010、169頁、分担：井下千以子「学士課程カリキュラム・マップに見る「学びの転換」と「学びの展開」ーWriting Across the CurriculumとFDー」28-40.
- ⑥ 東北大学高等教育開発センター編『大学における「学びの転換」と言語・思考・表現』、東北大学出版会、2009、総173頁、分担：井下千以子「研究大学における「書く力考える力」の育成と「実践型FD」ー学習館の転換・発達観の転換・デザイン観の転換ー」86-97.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井下 千以子 (INOSHITA CHIIKO)

桜美林大学・心理・教育学系・教授
研究者番号：60407757

(2) 研究分担者

井下 理 (INOSHITA OSAMU)
慶應義塾大学・総合政策学部・教授
研究者番号：30129069
土持 法一 (TUCHIMACHI HOICHI)
帝京大学・総合教育センター・教授
研究者番号：00422064
田部井 潤 (Tabei Jun)
東京国際大学・人間社会学部・教授
研究者番号：50267861
柴原 宜幸 (SHIBAHARA YOSIYUKI)
日本橋学館大学・リベラルアーツ学部・教授
研究者番号：30327275